

IoT工場のリスク分析、スカイディスクとSOMPO

2017年12月26日 6:00 [有料会員限定]

あらゆるものがネットにつながる「IoT」技術を開発するスタートアップのスカイディスク（福岡市、橋本司社長）はSOMPOホールディングス（HD）グループと組み、IoTを導入したプラントや工場での異常検知手法やリスク分析に関する共同研究を始める。将来的にIoT導入プラント・工場向けの保険商品やサービスの開発につなげる。

IoTなどIT（情報技術）を使って効率的な稼働を目指すプラントや工場が増えるなか、企業が抱えるリスクの内容は変化している。スカイディスクが得意とするIoTデータの分析とSOMPOグループによる金融面からのリスク分析を組み合わせ、IoT導入工場のリスクの最小化を目指す。

具体的な研究内容は大きく2つ。一つはプラント内のボイラーと回転機械の異常故障検知手法の研究。音声や振動、画像などを人工知能（AI）に認識させ、これまで熟練工が担っていた異常故障の検知に生かす。もう一つはプラント内設備へのIoT導入に伴うリスクの研究。AIやIoT活用で発生する新たなリスクを調査し研究する。



スカイディスクの橋本司社長(左)、損害保険ジャパン日本興亜の松原良太氏(中央)、SOMPOリスクマネジメントの小谷晃央上級リスクアナリスト(右)

スカイディスクはIoTデータをAIで分析し機械の故障などを予知する技術を持っている。まずスカイディスクがプラントのIoTデバイスから収集したデータを分析。その結果をもとに、SOMPOHD傘下のSOMPOリスクマネジメントと損害保険ジャパン日本興亜が数理的なリスク評価など金融面での分析を深める。

損害保険ジャパン日本興亜の松原良太・企業商品業務部企画グループ特命課長がAIを使ったIoTデータ分析に優れているスカイディスクに「ひとめぼれ」（松原氏）して共同研究を呼びかけた。スカイディスクの橋本社長は「スタートアップと大企業の掛け合わせで新しい動きを起こしていきたい」と話している。

（企業報道部 佐藤史佳）

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

NIKKEI No reproduction without permission.